第３次長久手市地域福祉計画・地域福祉活動計画、第２次長久手市地域自殺対策計画（案）についてのパブリックコメントの実施結果

計画を策定するにあたり、市民のみなさんからご意見をいただくためパブリックコメントを実施しましたので、結果を次のとおり公表します。

１　案件名

第３次長久手市地域福祉計画・地域福祉活動計画、第２次長久手市地域自殺対策計画（案）

２　募集期間

令和６年１月１５日（月）から令和６年２月１３日（火）まで

３　閲覧場所

福祉課、健康推進課、地域共生推進課、西庁舎1階情報コーナー、地域共生ステーション、まちづくりセンター、市ホームページ

長久手市社会福祉協議会

４　募集結果

１名（意見数１件）

５　提出された意見及び意見に対する市の考え方

	意見の要旨	市の考え方
1	ご意見のある箇所：75～85 ページ ご意見の内容： 長久手住民の一人として自分ができることはないかと考えています。 今私が考えているのは、中学卒業以降の若者でいろいろな事情で高校や大学、または、仕事などに行くことができず、そして人との関わりを拒んだり、求めたりもせず、自宅で過ごしている人たちがいるという現状を支援する具体的な計画を知りたいです。 こういうケースの場合、本人より家族が将来のことを思い不安になり、相談することが多いと思います。私もその一人で	ご意見にあります、いろいろな事情で人との関わりを拒んだり、自宅で過ごしている人たちへの支援については、ご自身が自らの生き方や社会とのつながりを選択して追求できるよう、支援者等が伴走する体制づくりに取り組んでいます。 内容については、本計画第３章の３「包括的な支援体制の整備」として基本的な考え方を記載しています。また、その具体的な手法となる重層的支援体制整備事業の詳細については令和６年３月末に市ホームページで公表する、本計画に紐づけて策定する長久手市重層的支援体制整備事業実施計画に掲載します。

	した。 当時は、相談してもすぐに解決できる問題ではないため、家族で考え、できることからやってみることしかできませんでした。 人とつながりたくないと思っている状態の人やつながることが怖い人達に対して、時には家族さえ拒否する場合もあります。家族がいない人もいます。でも、何かのきっかけで自分の気持ちややってみたいことなどを発信してみようかなと思える時があるのではと思うのです。 一人だけで生きていくのは、時に苦しい時もあるのではと思います。 年齢的に、自立に向けて考えていく支援や職場等ボランティアだけでは難しいこともあるので、重層事業のもっと具体的な内容が盛り込まれるとよいのではと思いました。	

※令和6年3月12日に開催した第7回長久手市地域福祉計画等策定推進委員会での意見をふまえて、下記の通り市の回答を一部追加します。

1. 自分にできることがないか

本計画では、市民が地域福祉を自分ごととして捉え当事者として役割を発揮することができるよう、基本目標ごとに市民の役割について記載しています。

2. 重層事業の具体的な内容について

支援者等が伴走する体制づくりに向けた具体的な内容として、以下の２つの支援を実施しています。

・地域とのつながりや社会参加が必要な方や世帯への訪問などによるアウトリーチ支援

・ひきこもりの相談窓口兼居場所「N-ジョイ」の運営などによる参加支援